

「まちかどミーティング(地域巡回)」概要 (檜山地域センター)

日時・場所 平成 21 年 7 月 6 日(月) 午後 7 時 ~ 8 時 20 分 檜山地域センター  
市民参加者数 36 人  
市側出席者 市長・企画部長・総合政策課長・地域情報課長・同課広報広聴係長・同係主査  
財政課財政係長・市民保険課国民健康保険係長

市長市政報告 (19:00 ~ 19:30) ・「檜山まちづくり協議会」への感謝と「拠点施設」建設スケジュール等  
・総合計画「“わ”のまち能代」の意義  
・「リサイクルポート」と「県北エコタウン構想」  
・「バイオマスタウン構想」と「農業政策」  
・市役所変革における「笑顔」と「あいさつ」・「感謝と思いやり」

市民との対話 (19:30 ~ 20:20) Q しばらく前から「少子高齢化」問題が言われ、国の滅びに繋がるという危惧がある。それを防ぐための市長の政治経験を踏まえての具体的な方策を示してほしい。

A 「少子高齢化」問題は、「少子」と「高齢化」を分けて考える必要がある。「少子」が進めば相対的に「高齢化」になる。まず「少子」対策が急務。男女の出会いの「きっかけづくり」が必要。紹介し合う地域の「世話焼き人」が必要ではないか。そして安心して子供を産み育てられる環境づくりのためのサポート体制が必要だが、地方自治体でできることは限られている。それでも最大限努力したい。

Q 「職がない」ことが最大の問題。今まで国からのしわ寄せが地方に押しつけられた歴史がある。宮崎や大阪知事のように、地方から中央へもの申してほしい。

Q この地区は、「歴史の里檜山」として認識されており、以前は「檜山安東氏城館跡整備計画準備委員会」があり、発掘もされた。その後 20 年、その流れを後退させてはならない。関係市町村とも連携すれば観光面での振興も見込める。土地の公有化や職員配置等も含めて、首長としての決断が重大だと思うが。

Q 拠点施設建設は喜ばしいが、その後のソフト面の活用・充実が大事。その意味でも先ほどの「準備委員会」は終了したが、早急に「策定委員会」を立ち上げ、土地の公有化等進めていくことが急務ではないか。

A この件は、経緯等不勉強だったので、至急担当と協議をしたい。

**検討内容...**「檜山安東氏城館跡」は、現在『史跡檜山安東氏城館跡保存管理計画』に基づき保護や活用を行っている。今後、さらに活用するには、整備計画を策定し方策を検討しなければならない。ただ、整備事業の実施には土地の公有化が必要で、発掘調査も必要。その実施には長期に渡る多額の費用が必要で、国庫補助制度の活用が前提。

国庫補助を受けるには市が文化庁から管理団体の指定を受ける必要があるが、指定には土地所有者等全員の同意が必要となり、今年度中に土地所有者等に同意をもらえるか意向を確認し、その結果に基づき今後の事業の方向性を決定したい。」

Q 旧檜山中学校跡地についての今後の方向性はあるのか。

A 「檜山まちづくり協議会」等で提言されれば協議することになるが、現在のところは方向性・予定はない。

Q 中学校跡地について、宅地造成し、グラウンドの1部を畑にして、財産区管理の山林の1部を提供する形で、分譲地としてアピールすれば中央から人を呼べるのではないか。(経費の問題はあろうが)

A 「クワイガル」のイメージだと思う。現地は地価も安く空港等交通の便もよいので、都会の人に魅力的だと思うが、現在「能代いなか体験推進協議会」で「農家民泊」の取組を行っている。それを検証して今後の検討としたい。山林についても、必要な場合は、檜山財産区管理会と協議していきたい。

**検討内容...**農家民泊は、檜山地域でも受入農家の募集を行っている。農家が協議会に登録し、教育旅行の受け入れを進める中で、土地の利活用が必要となってくれば、財政課と相談しながら検討したい。

Q 合併前に「森林計画」があったが、二ツ井地区にも森林が広くあり、世界的にもCO2対策等のため、森林の重要性が評価されている。今後、能代市の国有林以外の部分をどのように育成するのか。

A 非常に難しい問題。近年、山は疲弊し荒れているが、山の多面性が注目されており、手をかける必要はあるが、従来の林野予算の枠を越えて、環境・福祉等多方面での予算確保に努めなければならないが…。採算面のみでなく考えていく必要がある。

**検討内容...**「市森林計画」は5年ごとに策定し、平成20年3月に合併後最初の計画が策定された(計画期間はH20.4.1～31.3.31の10年間)。

基本方針は、育成単層林における保育・間伐の積極的な推進、広葉樹林化、針広混交林化を含め、人為と天然力を適切に組み合わせた多様性に富む育成複層林の計画的な整備、天然生林の的確な保全・管理等に加え、山地災害等の防止対策や松くい虫被害防止対策の推進等により重視すべき機能に応じた多様な森林資源の整備及び保全を図る。

Q 中母体の「ふれあいの森」が、県事業で遊歩道・東屋を整備し、今後「体験学習」の場とする計画のよう。子供達の体験学習や、観光にも繋がると思うので、市教育委員会や観光協会の協力をお願いできないか。

A 提案があれば出してもらいたい。

情操教育にもなるし、心を育てる意味で必要なこと。

いなかには遊ぶ場所がないと言われるが、釣り・火・スキ等自然の中でできることは沢山ある。けれど、子供の頃から体験しないと身に付かない。

いなかの良さを地元の人間が再認識することも必要。

**検討内容...**「体験学習の場」計画(体験できる種類等)が具体的に変わった段階で、体験学習活動のプログラム等に組み入れることができるか検討したい。また、整備後、檜山地区の観光資源の一つとして情報発信したい。

Q 要望だが、檜山には、茶も含め「歴史」がたくさん残っている。総合計画の「未来へつながる“わ”」実現のため、今後も地域・行政が相互に話を聞き合いながらまちづくりを進めてほしい。